

平成30年度第1号
平成30年7月25日発行

湖畔

北海道立大沼学園

〒041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

「with の精神」

「蓬生麻中 不扶而自直 - 蓬 麻の中に生ずれば扶けざるも直し-」

園長 三浦 辰也

2003年（平成15年）に障害者福祉制度は大きな転換期を迎えた。「措置」から当事者の自己決定によるサービス利用の開始、すなわち「支援費制度」の導入である。その2年後の11月に「障害者自立支援法」が公付された。これにより障害種別ごとに異なっていた支援サービスが一元化され、サービス量に応じた定率負担（応能負担）が導入された。各児童相談所の相談支援係が対応し、私は帯広児童相談所でその任にあたっていました。係は市町村や関係施設、サービス受給者、保護者らに行政説明を行うことになりました。その後、申請に基づき「障害程度区分」（現在は障害支援区分）による支援費の認定業務などあり多忙を極めておりました。2004年の平成16年児童福祉法改正法は地方自治体に条例による「要保護児童対策地域協議会（以下、「要対協」とする）」の設置を求めました。支援費認定業務と並行して十勝管内全20市町村（合併後19市町村）すべてに「要対協」を設置して頂くために、行政説明資料や要綱素案の作成、説明会開催依頼に奔走しておりました。

その最中に、癌で闘病していた父の危篤の報が入りました。遙か年長の部下はあたかも上司命令の如く、私にこう言うのです。「係長 この仕事は私がやりますから直ぐに向かいなさい」と。暫し席を離れるため道本庁担当者にその旨を連絡すると「速く行って、背中をさすってあげてください」と励ましてくださるのです。17年間寝たきりの母を介護した父は、母より先に天国に召されました。その日、その時、いかなる仕事があろうとも励ましあい、支えあう、そして互いの気持ちを慮る。

先日、小学生が担任教諭と共に学習を発表するために園長室を訪ねてくれました。

立派な作文です。

「がんばっているぞ」と力強く題名が記されています。

「この写真をみてください。ぼくは『がんばっているぞ』という題名をつけました。選んだ理由は、すごい力で石をもちあげているのでびっくりしたか

らです。自然の中で生きようとしているので、ぼくもおうえんしたくなりました。なんの芽かわからないけど、大きくなるために『がんばっているぞ』と聞こえてくるような気がしたので、この題名にしました。」

その1枚の写真は小さな植物の種が発芽し、何倍もの重さがある石を持ち上げている写真です。重たい石を持ち上げる生命の力強さに心を揺さぶられ、自分自身をそこに見いだしたからこそ聞こえた声。

彼自身が僕に言っているようでした。「僕は、がんばっているぞ」と。

先に記載した「サービス」。私たちは「サービス」を生業としているのか？この子達を「ケース」と呼んでいいのか？「効果的な支援」と銘打った研修会。「今度、やってみます」と感想を記載することができる参加者。そこには魔法が存在するのか？「立ち位置が違う」といえばそれまで。施設にその方法論を導入していないから支援効果がないとご指摘を受ければそれを甘受。どうもしっくりこないのです。

私は未だ、「教護」と「感化」の世界に生きています。いずれ職員と少年が学園を離れるにせよ互いに培ったもの。「ケース」に「サービス」として関わりを持ったのではない。心に残る「〇〇君」であり、互いにその存在の重さは生き続ける。

僕の折れそうになる心、曲がった気持ちを姿勢正しく、落ちついた気持ちにしてくださったのは公私に渡って励ましを与えてくださったあの方、この方、あの子どもたち。

入園時、俯いて学園の門を潜る子どもたち。「園長先生。僕はいつ退園できますか？どうしたら退園できるのですか？」と切ない心を隠して質問してきます。僕はこう答えることに決めている。

「僕と笑ってお話ができるようになって、春、夏、秋、冬の森の様子を感じることができるようになった時がお別れの時だよ」と。

蓬生麻中 不扶而自直

蓬は時として僕であり、少年達。

麻もまた同様。共に育ち合うこと。

曲がっているのは少年ではない。

寧ろ、「学園に来る子どもたちは」とステレオタイプでしか捉えることができない我々こそ蓬なのである。

託されたその期間はあまりに短い。

「withの精神」の旗は、爽やかな大沼の風に今もはためいている。

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）

「ともに心身の汗を」

福祉専門員

折出 茂樹

3月で定年となった後、若い頃の勤務地である大沼学園を希望して、老体に鞭打って働かせてもらっています。自然豊かな環境と素晴らしい分校の指導者との連携で、その一員として自分の中では集大成として、毎日生徒とふれあうことを喜びと思っています。たくさんのエネルギーを蓄えてほしいと願っています。

どうぞよろしくをお願いします。

新任教諭の紹介（新しく鈴蘭谷分校に着任された先生）

「ある」と「あるべき」の間に「ありうる」道を

七飯町立大沼小中学校 鈴蘭谷分校

教頭 浅利 仁

自然豊かなこの鈴蘭谷分校に赴任し、私自身が七飯町出身で、小さい頃、親に連れられて山菜採りやキノコ採りをしたことを思い出して大変懐かしい思いを抱いています。これから分校と学園の先生方と一緒に活動し、子ども達の成長に関わっていきたいです。

今後は、今までの教員経験や小さい頃の経験を「ありうる」道の中で発揮できれば幸いです。

分校での勤務、生まれ故郷での初めての勤務、更には以前一緒に働いていた先生や知っている先生方も多い職場で大変プレッシャーを感じ日々緊張しながら仕事しております。

「温かい目を持ちながら」

七飯町立大沼小学校 鈴蘭谷分校

教諭 日登 昌子

自然豊かなこの学校。毎日が新しいことばかりですが、この自然にふれながら大らかな気持ちで過ごすように心がけて過ごしてきました。

まだまだ慣れないことばかりですが、“明るく元気に”をモットーに、温かい目を持ちながら子どもたちに接していきたいと思っています。

また、学園・分校がひとつになって子どもたちが健やかに学んでいけるよう、微力ながら努めていきます。

どうぞよろしくお願いたします。

「学園便りあいさつ」

七飯町立大沼中学校 鈴蘭谷分校

教諭 秋野 雅樹

赴任して3ヶ月が過ぎました。

子ども達との学校生活は、今までの経験とは若干違い、以前から勤務されていた先生方や学園の職員の方々の、一人ひとりの個に対応された指導に感心しています。

寮の生活と分校での生活を、規則正しく生活している子ども達の姿に関心しながら、少しでも応えてあげられるよう精一杯頑張っていこうと思います。

「その日が来るまで」

七飯町立大沼中学校 鈴蘭谷分校

教諭 松坂 稔巳

4月着任時、学園の周りを歩き、自然に恵まれた素晴らしい環境の中でどんな取り組みができるのか期待が膨らみました。生徒が「昨日アカゲラを見ましたよ」と教えてくれたり、数日前は「大きな角の生えた鹿の親子が来ていました」という話を聞き、野生動物の観察が好きな私はとても感動しました。日々の授業を重ね、生徒との関わりが増す中で、学園の良さ、やりがい、難しさも少しずつ実感しています。今はまだ、ここの自然環境を味わい、授業に活かす余裕がありませんが、いつかそういう取り組みができることを目標に、自分が納得できる過ごし方をしていきたいと思っています。

平成29年度卒業生激励会

福祉専門員 佐藤 勇介

平成30年3月19日に行われました激励会では、小学6年生、中学3年生を気持ちよく送り出すべく、美味しい食事と様々な催し物を準備しました。各寮それぞれダンスやお笑い、皿回しなど趣向を凝らした余興で卒業生を楽しませました。最初は照れくさそうに緊張して座っていた子ども達も会が進むにつれ肩の力も抜け、とても楽しそうに、そしてどこことなく寂しそうに笑っていたように見え印象的でした。最後のスライドショーも楽しんでもらえたようでホッとしました。私自身も子ども達といろいろな思い出を作ってきたんだなと実感させられ私にとって忘れられない行事となりました。



僕達は、激励会で「悲しいとき～」などと、今までの蛍雪寮での思い出を元にした、お笑いをやりました。卒業生の先輩方とは、特に色々な思い出があったので、「悲しい、もっと一緒に生活したかった」という思いが半分、そして次は僕らが最高学年だという気持ちが半分ありました。

あとは、若山先生のベースギターの演奏がとても上手で感動しました。

みんなで食べた、ちらし寿司もとても美味しくて、ほっぺたが落ちこちそうになりました。

中三 Sくん

平成29年度卒業証書授与式

自立指導係長 大國 伸夫

平成30年3月20日、例年になく雪の降り積もった冬の終わりを告げるかのように、平成29年度七飯町立大沼小学校・大沼中学校鈴蘭谷分校の卒業証書授与式が、多くのご来賓、保護者の方々が見守るなかで挙行されました。小学生4名、中学生9名が慣れ親しんだ教室を後に、次のステージへの階段に歩を進めました。

大沼学園には平成21年度から鈴蘭谷分校が併設され、児童・生徒の日々の学習指導は分校の先生方が中心となりました。学園職員はTT（チームティーチング）として授業のサポートにあたってきました。また、11月の学園祭終了後は、分校の先生方の協力を得て中学3年生を対象に「進学クラブ」と称し高校受験を希望する生徒に放課後の補習授業を行いました。自分の将来を見据えて、どの生徒も真剣に取り組み、それぞれが志望校に合格することが出来ました。そんな中、入所時期が遅かったN君だけは就職を目指すこととなり、卒業後は「実科生」として学園で就労のための学習を続けることとなりました。また、小学生を卒業した4人のうち3人はそれぞれ地域の中学校に進学。残る1人T君は引き続き学園に残り鈴蘭谷分校で中学生生活をスタートさせました。

卒業式の最後に式歌「旅立ちの日に」を卒業生、在園生、そして職員全員で歌い上げ、新しいステージの幕が上がりました。それぞれの「春」に大きな期待が膨らみます。

ぼくは、卒業式では在校生代表で送辞を読みましたが、送辞を読んだ時は非常に緊張して「失敗したらどうしよう、声が小さかったらどうしよう」などと思いながらやりましたが、思ったより緊張せずにスラスラと読むことが出来ました。それと、送辞の他にも卒業生との別れというものを味わった時に「これでもう会えなくなったり、一緒に遊んで楽しかった日も終わりなんだろうな」と思い、とてもさびしくなりました。

中三 Kくん



マナー講習と函館山夜景見学

生活指導係長 斉藤 利昭

「平成26年度社会的養護施設の第三者評価（平成26年12月26日）」において「改善すべき点」として「外食頻度を増やすこと」の指摘があったため、今年度は3月12日（月）に「レストラン五島軒本店 レストラン雪河亭」にてマナー講習を実施しました。「レストラン五島軒」は函館でも有名な洋食の老舗レストランです。五島軒と言えば、カレーが有名です。今回はカレーライスを中心に、サラダ、蟹クリームコロッケ、ミートコロッケ、ポテトフライ、アイスクリーム、オレンジジュースのセットメニューをいただきました。普段の食事時はうるさいくらい賑やかな雰囲気ですが、結婚式場のような会場での食事に児童も緊張して非常に静かな雰囲気の中で食事をする事が出来ました。その後は函館山からの夜景を観賞しました。3月中旬の夜間で非常に寒かったのですが、100万ドルと言われる夜景を初めて見る生徒も、感動して暫く夜景を眺めていました。普段の学園生活の中では、夜間に外出することは滅多にありません。それも一つの楽しみだったかもしれません。このように貴重な場面や雰囲気を生徒職員と一緒に共有できたことは、我々職員も生徒も忘れられない思い出の一つになったと思います。



マナー講習は、五島軒に行って外食をしました。五島軒の外食でのカレーライスは、すごく美味しかったです。外食では色々なマナーを知れたので良かったです。

夜景見学では、自分は初めての経験で、景色はとても綺麗でした。ロープウェイなどにも初めて乗ったので、とても嬉しかったです。景色を見ている時に、景色の中に、文字が入っていたりしたので、びっくりしました。

この後に、体験できないようなことができたので、とても嬉しかったです。

中二 Kくん



各寮の様子

芝蘭寮

平成30年度のスタートは4名です。それまでは、平成29年度の「湖畔第三号」の編集後記にも記載させていただきましたが、今年の1月から3月に掛けて非情に大変な状況の中での寮運営でした。11名に膨れ上がった寮集団も日常的にトラブルや落ち着かない状況が続き、時には休日や深夜までその対応に追われ、我慢比べのような日々を過ごしていました。3月の卒業式から少しずつ生徒が退園していき、合計7名の生徒が無事に退園しました。4名の新しいスタートは、こんなに平和で良いのかと思うほど残った生徒も穏やかに落ち着いた状況の中で過ごすことが出来ています。寮母とも今振り返ると、1月から3月まではよくやってこれたなと自分達の事をちょっぴり褒めてしまいます。2ヶ月間はこの4名の生徒と平和で穏やかな生活を過ごしましたが、そんな日々もいつまでも続くわけではありません。6月には今年度最初の新入生が入所してきました。昨年度末のような状態に戻らないよう、生徒も職員も穏やかで落ち着いて過ごせるような寮運営を心掛けていきたいです。

蛍雪寮

今年度は6名でのスタートでしたが、6名全員が揃っての生活が始まったのは5月に入ってからでした。昨年度は他寮から生徒の受け入れがあり、元々落ち着きに欠ける寮が、さらに落ち着かない状況になりました。問題行動が続き、その対応に追われながら今年度を迎え、今ようやく落ち着いてきたところです。現在は、中学3年生が4名、中学2年生が1名、中学1年生が1名の6名が生活しており、8月末に神奈川県横浜市で開催される第69回全日本少年野球大会に向けて、毎日練習に取り組んでいます。上手くいっている時はいいですが、練習試合で負けていたり、ミスが重なってくると、きつく厳しい指摘の声がけが多くなって、チームの雰囲気が悪くなります。毎日の日記では、雰囲気が悪くなったことを振り返ることは出来ていますが、それを次に繋げていくことが大きな課題だと思っています。練習中に態度を乱すことが多く、昨年度は大会への参加を見送った児童も、今年もふて腐れたこともあります。大会に向けて懸命に頑張っています。今年は、第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会にて寮生全員が大会に参加できました。横浜市で行われる第69回全日本少年野球大会でも大活躍してくれること、平成30年度「湖畔第二号」で良い報告ができることを期待しています。

晩翠寮

平成30年3月に5名の退園生を送り出し、4月1日から晩翠寮は5名の寮生での生活になりました。寮の構成は小学4年が1名、中学2年が1名、中学3年が3名です。学園の周囲は緑が豊富で、春の山菜には事欠きません。食卓には生徒が採ってきた山菜で作ったおかずが一、二品増え、モリモリ食べていました。5月のゴールデンウィークには、砂原漁港に魚釣りに行きました。型のいいメバルが釣れ、喜んでいました。活きが良い白身魚のお刺身は、なかなか食べる機会がないので、自分で釣ったメバルのお刺身が好評でした。グラウンドの横に川が流れています。園内ではイワナ川と呼んでいます。土曜日の午後、晴れていると必ず中3の3人は裏の畑でミミズをとり、イワナ川へ釣りに行きます。25cm台のイワナは今でも釣れています。キャッチ・アンド・リリースも身に付けました。中学生4名は野球クラブ。小学生は学園の中で一人だけですが、野球が大好きです。日常的な雰囲気は野球の話題が多い生活を送っていて、6月27日～29日まで盛岡で開催された全日本少年野球東北・北海道地区大会ではキャプテンで優秀賞を頂いた生徒もいます。8月末に行われる第69回全日本少年野球大会に向け、練習に励んでいます。目標を持つことで、普段の寮生活にもリズムが付き、目標を大切にしたい意識が、安定した生活に変化してきます。大沼学園の野球は非常に大切な活動と感じています。

運動会 Fairplay～闘いは協力の場～ 児童自立支援専門員 関口 聖人

前年度の第9回運動会はあいにくの雨天での開催になりましたが、節目となる今年度の第10回運動会は天気にも恵まれ、快晴の空の下で実施することができました。Fairplay～闘いは協力の場～をスローガンに子供達もチーム一丸となって取り組む事が出来ました。なかでも徒競走で、転倒してしまった子が起き上がるのをまってから、再び走り始めたI君は、まさにスローガンであるFairplayを体現してくれました。団体競技では、児童、職員一丸となって取り組んだ組み体操、川下り。今年度は児童数が少ないからこそ、児童、職員が一体となって取り組む事ができました。大縄跳びでは、両チームとも最高記録を更新するなど子供達の力を改めて感じさせられました。

私自身今年で赴任してから3度目の運動会ですが、毎年新たな発見がある行事だと感じています。



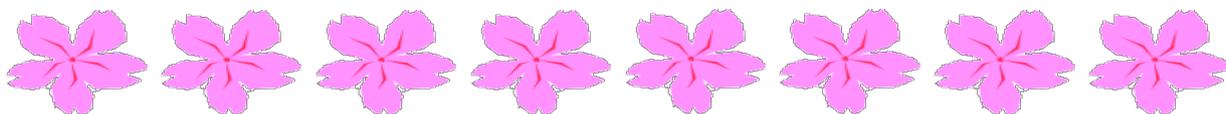
僕は運動会で、赤組キャプテンとして出ました。第10回という記念すべき回で、キャプテンを務めることができるとても嬉しかったです。一番心に残っているのは、全員リレーです。序盤に先行されてしまい、苦しい展開になりました。しかし、追いついて僕がトラックに入った時には、逆転していました。そしてバトンを受け取り、1着でゴールできました。チームで協力し、一つになれた事で勝ち取ったものだと思います。とても、良い思い出になりました。

紅組キャプテン Mくん

今年の運動会は、白組のキャプテンとして、運動会に出ました。自分は、どのようにチームを引っ張っていけば良いのか不安でしたが、みんなが優しく自分を支えてくれたので、チームをまとめることができました。今年の白組は、負けてしまいましたが、自分は、楽しい最高の思い出ができたので良かったです。

白組キャプテン Sくん

中学生に進級して



『始まった 中学生』

ぼくは、今年で中学1年生になりました。小学校から中学生になった気持ちは、小学生のころの教科目は7科目だったけど、中学生の教科目は9科目なので、ちょっと大変になった所です。中学生は、先生も代わってまだ慣れていませんが、そのうち慣れて行くと思います。

ぼくの中学校の目標は、あいさつ・敬語をしっかりとやることと、先生方に迷惑をかけないことと、授業態度をしっかりとやるです。あまり勉強に自信がないですが、いっしょうけんめいやって、良い成績をとれるように頑張ります。

中一 Iくん



『岩手県で準優勝』

平成30年6月27日～29日、岩手県滝沢市・雫石町で第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会が開催され、東北・北海道地区の児童自立支援施設7チームが出場しました。大会期間中は、梅雨の影響で試合の実施も危ぶまれましたが、事務局である岩手県杜陵学園の皆さまの入念な準備と熱意によって開催され、また大沼学園をあたたく歓迎していただき、ありがとうございました。

今大会、大沼学園は準優勝でした。5年振りとなる全国大会出場を決めましたが、決勝ではあと一歩で優勝を逃し、準優勝旗と共に悔しさも持ち帰る結果となりました。

『全国大会出場を目指した東北地区の仲間』

大会初日の27日は、大会出場チームが一堂に会する選手交歓会が開かれました。各チーム紹介とトーナメントの抽選が行われ、会場の緊張感が高まります。その間にアトラクションとして、わんこそば体験が和やかな雰囲気で行われました。各チーム代表者3名と給仕1名がステージに登壇し、大沼学園は最下位でしたが、明らかに光るものもあり、会場を大いに沸かせました。

大会2日目となる28日は、福島県福島学園との一回戦が実施されました。結果は、15対4(5回コールド)で勝利しました。序盤から激しい攻防が繰り返され、点差以上に厳しい戦いでした。

そして、午後には宮城県立さわらび学園と準決勝が実施されました。14対1(3回コールド)で勝利しました。さわらび学園のメンバーが最後まで諦めず、チームメイトがミスしても互いに前向きな声をかけあっている姿は、まさに大沼学園が目指している野球でした。

大会最終日となる29日は、秋田県千秋学園と決勝戦。昨年の大会では、3回コールド負けという非常に厳しい結果となりました。今回の試合は、最終回2アウトまで8対7でリードしていましたが、最後は逆転され、8対10で惜敗しました。最終回、千秋学園の集中力は見事でした。

今大会では、全国大会出場という共通の目標へ向けて全力で大会に挑み、少しでもチームを感じることができたと思います。ナイスキャッチや、ナイスランニングもありました。ただ、スムーズに大会を迎えたわけではありません。大雪の影響で、グラウンドでの練習開始が遅れたこと、思い通りにいかずキレてしまう、大会直前まで揉め事を起こす、練習に参加できずベンチで見学するなど、大会期間中も、不安と緊張の高まりから、チームメイトを責め、相手へ野次を飛ばすなどが見られました。そのような状況の中でも、支えてくれる存在があり、少しずつ課題と向き合ってきた過程があります。

『感謝、全国大会』

野球部を支える活動として、寮活動での野球とメンバーへの叱咤激励、実科によるグラウンド整備、庶務課による野球用具の補充、鈴蘭谷分校職員によるクラブ支援と横断幕の作製、そして、大会出場と帰園時のあたたかな応援、職員による大人の野球部の結成がありました。

また、野田生中学校を始めとする近隣中学校、道南の福祉関係者・弁護士チーム、函館中央警察チームとの交流試合、鹿部シニアスターズ杯開催など、継続してご支援いただいている鹿部シニアスターズ、球場まで足を運び応援していただいた澄ご夫妻様、力をつけよと高価な牛肉を差し入れをしてくださった種市吉富様、お祝いメッセージを頂戴した北海道保健福祉部佐藤 敏部長様、同部子ども未来推進局花岡祐志局長様、同部総務課佐賀井課長様 etc.ここではお伝えしきれませんが、野球部へご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。

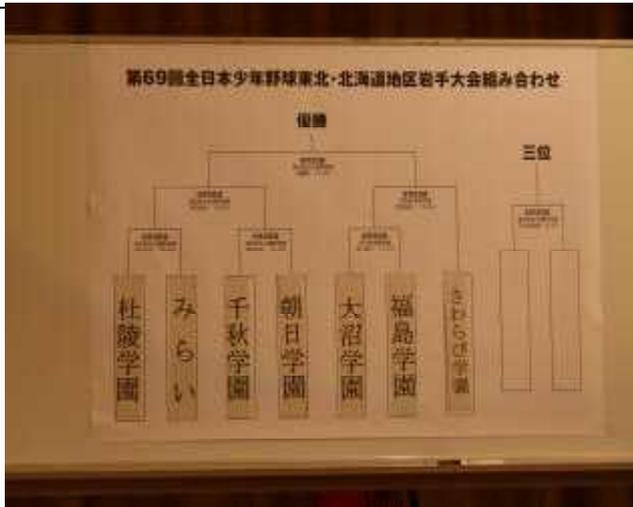
また、今回のメンバーは、先取点を入れられる、または点差が追いつかれても、諦めることなく取り組むことができていました。それは、大沼学園にとって強豪校と試合経験を積んだことにより、メンバーの自信を高め、最後まで諦めない気持ちにつながったと感じています。

野球部メンバーは、感謝の気持ちを持って野球に取り組もう。君たちの頑張る姿によって応援していただいていることもあると思いますが、このようなたくさんの支えがあるからこそ、安心して全力で野球に取り組んでいることを感じて欲しい。君たちの背景には、共に全国大会出場を目指した東北の仲間の思い、そして全国大会出場の願いが叶わなかった先輩たちがいたことを忘れないでください。

8月26日～28日、横浜スタジアム等で開催される全国大会へ行ってきます。

ぼくは、6月末に行われた第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会に参加しました。ピッチャーでは三振をとることができて、とても嬉しかったです。守備ではサードを任されましたが、暴投してしまい悔しかったです。1回戦、2回戦はコールド勝ちでしたが決勝戦では8対10と僅差で負けてしまい、とても悔しかったです。

全国大会では、この悔しさをバネにして頑張りたいです。



＊お世話になりました＊

＊退職＊

(平成30年4月1日付)

自立支援課

自立指導係 専門主任 狩野 宏邦

ご寄附食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(平成30年3月1日～6月) ＊敬称略

山戸磨(八雲町) 大中山小学校(七飯町) 宮村内科(七飯町) 財津自工(七飯町) 大成町慈恵会(瀬棚町) 佐藤隆三(七飯町) 七飯更生保護女性会(七飯町) 函館更生保護女性連盟(函館市) 澄マサノ(函館市) 子ども未来推進局長 花岡祐志(札幌市) ふじの学園(北斗市) 株式会社大沼合同遊船(七飯町) ケルン(森町) こぶし(七飯町) 沢出精肉店(七飯町) 大沼地区振興会 勝田会長(七飯町) 茂辺地中学校(北斗市) 鹿部シニアスターズ(鹿部町)

編集後記

昨年からの長い冬も終わりを告げ、待ちに待った春が訪れるとともに19名の子どもたちが、自然豊かな、この大沼の地から旅立っていきました。

行き先はそれぞれで、喜び・期待・緊張・不安を胸に抱きながらまた、新たな道へと歩きだしました。私たちは、子どもたちの歩みをこれからも温かく後押しします。

桜の咲く頃、グラウンドで白球を懸命に追いかけていた子どもたちの姿がありました。

桜の散った今では、のびのびとしたプレーができるまでになりました。そして、この6月の第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会では準優勝旗を持ち帰りました。夏の横浜での第69回全日本少年野球大会を目の前にし、今日もグラウンドで意気込む姿が見られます。

生活、作業、クラブと懸命に取り組む子どもたちの傍らにはいつも、共に汗を流す私たちがいます。

大人にみとめてもらいたい、この子どもたちと、子どもたちにみとめられたい、私たちが(大人が)ここにはいます。

これからも、子どもたちの成長に寄り添いながら、私たちが成長できるよう努力してまいります。その様子のお知らせを致します「湖畔」は、北海道立大沼学園ホームページからも御覧になれます。

平成30年度「湖畔第二号」は12月発行を予定しております。

今後とも御指導、応援の程どうぞよろしくお願いいたします。



学 園 の 動 向

平成29年度【3月】平成30年度【4月～6月】

- 3月 1日 ・性の懇話会（中2）
 ・札幌市児相経過診（藤田航介児童福祉司、石山博基児童心理司来園）
- 6日 ・公立高校入試
- 7日 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
- 8日 ・児童面接（もなみ学園高橋紀旬主査来園）
- 9日 ・避難訓練
- 11日 ・理髪
- 12日 ・マナー講習（函館市五島軒）函館夜景見学
- 13日 ・旭川児相児童面接（高島希児童福祉司来園）
- 14日 ・T君退園
- 15日 ・函館児相児童面接（南部葵判定援助係長、後藤裕子児童福祉司来園）
- 16日 ・公立高校合格発表（受験者全員合格）
- 20日 ・分校卒業式
 ・函館児相児童面接（後藤裕子児童福祉司来園）
- 21日 ・T君、O君、S君、K君、H君、S君、N君、A君、I君 退園
- 22日 ・S君退園
- 24日 ・T君退園
- 26日 ・O君、F君退園
- 27日 ・要対協出席（眞中孝福祉専門員）
- 28日 ・Y君退園
 ・函館児相児童面接（後藤裕子児童福祉司来園）
- 30日 ・I君、W君退園
- 31日 ・K君退園
- 4月 2日 ・F君退園
 ・室蘭児相児童面接（佐藤雅司児童福祉司来園）
 ・晩翠寮買い物訓練
 ・自立支援課自立指導係折出茂樹福祉専門員着任
- 5日 ・函館児童相談所着任挨拶（飯田聖治相談支援係長、椎野秀基福祉専門員、門前慶介福祉専門員、浦本舞子福祉専門員、飯田雄士判定員、片岡愛美判定員、尾見元之児童福祉司、佐藤加奈子児童福祉司）
 ・入所児童施設見学（片石福祉専門員、佐藤福祉専門員付添）
 ・釧路児相児童面接（阿波加忠純子ども支援課長、小松愛菜福祉指導員来園）
 ・札幌市児相にて退園児童との面接（斉藤利昭生活指導係長）

- 6日 ・釧路児相にて退園児童との面接（自立支援課長）
- 7日 ・O君退園
- 8日 ・理髪
- 9日 ・着任式、1学期始業式、内科検診2計測、視力、聴力検査（分校）
- 13日 ・学力テスト（全中学）
- 14日 ・蛍雪寮買い物訓練
- 15日 ・芝蘭寮買い物訓練
- 16日 ・授業参観日、任命式
 ・敷地内通路アスファルト補修工事
- 17日 ・学力検査
- 18日 ・職員会議
 ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）
- 19日 ・支援会議
- 22日 ・湖畔清掃（分校）
- 24日 ・歯科検診（分校）
- 25日 ・東北・北海道地区児童自立支援施設協議会役員会・施設長会議（グリーンピア大沼、～26日）
 ・函館児相児童面接（城米大輔児童福祉司来園）
- 26日 ・東北・北海道地区児童自立支援施設協議会役員会・施設長会議2日目（大沼学園施設見学～施設長9名）
- 27日 ・振替休校日（22日）
 ・正面駐車場アスファルト補修工事



5月 3日	・各寮園外活動（～6日）	8日	・遠足
10日	・新任主任級研修出席 佐藤勇介福祉専門員（札幌市、～11日）	9日	・野球部 函館中央署との交流試合（午前）、 ラ・サール中学校との交流試合（午後）
11日	・眼科検診（分校）	12日	・七飯町民生・児童委員見学
12日	・道南福祉関係者との交流試合（野球部）	14日	・全児協企画推進委員会（きぬ川学院） 眞中孝福祉専門員出席（栃木県、～15日）
15日	・保健福祉部長視察（佐藤敏保健福祉部長、東幸彦主幹、阪井麻衣主任来園）	16日	・野球部 野田生中学校との交流試合
16日	・環境整備活動（運動会） ・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長）	17日	・理髪
17日	・耳鼻科検診（分校） ・避難訓練・支援会議 ・室蘭児相児童面接（上田剛和児童福祉司来園）	18日	・避難訓練 ・北広島市民生・児童委員施設見学（21名） ・若手リーダー養成3年目研修 片石福祉専門員出席（札幌市、～19日）
20日	・理髪	20日	・医診（かとうメンタルクリニック加藤知子副院長） ・職員会議 ・今金高等養護学校説明会（安藤達専門主任、眞中孝福祉専門員引率）
21日	・内科検診、心電図検査（分校：中1） ・第三者評価宮地地彦委員来園	21日	・期末テスト（中学、～22日） ・支援会議
23日	・職員会議	22日	・旭川児相児童面接（旭川児相齊藤博美子ども支援課長、西恵里奈判定員来園）
24日	・運動会総練習	24日	・野球部 尾札部・旭岡中学校との交流試合
25日	・運動会前日準備 ・少子高齢化対策監視察（粟井是臣少子高齢化対策監、竹内弘安主幹、西村恵一主任来園）	25日	・内科検診 ・野球部壮行会
26日	・第10回大運動会	27日	・第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会（岩手県滝沢市・雫石町）参加（～6月29日）
28日	・振替休校日（26日） ・全寮買い物訓練 ・再任用職員研修 折出茂樹福祉専門員出席（函館市）	28日	・第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会 1回戦～対：福島学園 15対4で勝利 準決勝～対：さわらび学園 14対1で勝利
29日	・七飯町更生保護女性会水嶋八重子代表 他3名講演会講師依頼のため来園	29日	・第69回全日本少年野球東北・北海道地区大会 決勝戦～対：秋田千秋 10対8で惜敗
30日	・全児協第一回役員会 園長出席（東京都）		
31日	・全国施設長会議、施設長研修 園長出席（東京都、～6月1日） ・若手リーダー三年目研修 関口聖人児童自立支援専門員出席（札幌市、～6月1日）		
6月 1日	・函館地方裁判所司法修習生見学（修習生6名、裁判官1名）		
2日	・鹿部シニアスターズ杯交流試合（鹿部・浜分合同、野田生中学校参加）		
4日	・授業参観日 ・札幌児相よりO君入園		
5日	・児童自立支援施設職員スーパーバイザー研修（武蔵野学院） 自立支援課長出席（さいたま市、～8日）		
6日	・函館児相花壇整備活動（園長、斉籾孝宏専門主任、西澤専門主任、片石福祉専門員、実科生）		
7日	・道立児童自立支援施設あり方検討会議（本庁～園長、伊藤真介庶務係長）		